# 町の考え方を問う

# 一般質問

3月定例会では、町政全般へ11人の議員が18項目にわたる一般質問を行いました。なお、質問者及び質問項目は、左の表のとおりです。

掲載にあたっては紙面の都合上、質問内容、回答共に抜粋し、編集したものとなっておりますのでご了承ください。


○山田　成宣　（P4）　☆世界ジオパーク認定に向けての対策について
・杉並木の恒久的な保護対策について
○石川　　栄　（P4）　☆早川河川へ温泉排水が流れ込むことによる景観への影響について
○勝俣　公好　（P5）　☆大涌谷における交通渋滞について
・箱根火山学習センターについて
○村野由紀子　（P5）　☆施政方針について
○村上　東司　（P5）　☆ハイキングコースに係る基本的な考え方及び今後の方針について
○遠藤　秀則　（P6）　☆防災情報について
○稲葉親太郎　（P6）　☆箱根教育（学校教育）について
○勝俣　剛一　（P6）　・観光街路灯について
☆老人福祉について
○川端　祥介　（P7）　☆箱根の火山性地震について
・箱根町の国際観光戦略について
・行政財産の管理・処分について
○沖津　弘幸　（P7）　☆東日本大震災の復興支援について
・施政方針について
○山田　和江　（P7）　☆箱根町の難聴対策について
・防災対策について

質問が複数ある議員については☆のついている方を掲載しています。

## 企画　世界ジオパーク認定に向けての対策について　山田　成宣

**Q　現在、箱根ジオパークが抱える課題や今後の方針**

**A**　1市3町及び神奈川県の負担金のみならず、安定した財源確保のため、パンフレットやマップ等の広告収入など協議会の会員などからの民間収入についても平成25年度より実施していき、行政からの負担金だけに頼る体制から、民間収入も交え、官民協力のもと、安定した予算を確保できるように進めていく。

**Q　ジオパークの認定により、町にもたらされる効果**

**A**　箱根ジオパークのエリア1市3町は、年間3000万人の観光客が訪れる地域であり、観光地としては成熟している。このジオパークの活動により、観光地・箱根の魅力を向上させ、「また箱根に行きたい」と思うリピーターの増加を図り、「深みと奥行きのある観光地」を目指していきたい。

**Q　地域住民へのジオパーク活動の広がり、1市3町の活動のまとまりについて**

**A**　箱根ジオパークは、「教育・観光・地域振興」の3つを理念としている。この理念に基づき、魅力的なジオツアーの開催や学校教育・生涯学習との連携など幅広い活動を実施している。各市町でも、既存の活動とうまく結び付け、ジオパークという共通の手段で地域づくりに貢献できるように、1市3町及び神奈川県の関係機関と協力して、その活動の輪を広げていきたい。

ジオサイトの一つである長尾峠

## 環境　早川河川へ温泉排水が流れ込むことによる景観への影響について　石川　栄

**Q　現在、箱根・元箱根地区の温泉排水は第二号公共下水道（仙石原浄水センター）に取り込んでいるようだが、箱根ジオパークも認定され箱根の景観を守ってゆくためにも早川に放流している温泉排水も同様の方法が取れないか。**

**A**　芦ノ湖は閉鎖水域で自浄作用が無いことから、湖周辺のエリアは国の許可を得て汚水、温泉排水を浄水センターに取り込んでいる。早川については、勾配も強く自浄作用も大きいことや水質にも影響が少ないなどの理由に加え、同センター処理能力の限界もあるので、そのような方法は、考えていない。

**Q　入湯税を使用し、温泉排水の「ろ過」をする施設の設置は出来ないか。**

**A**　入湯税は使用目的が定められているため、温泉排水の処理に使用することは難しい。

**Q　温泉排水の早川放流に規制は無いので、事業者や施設等に問題は無い。充分な流量さえ有れば景観も保てるのだが現在芦ノ湖の水は早川に放流されず、静岡県に取水されている。芦ノ湖より数キロ下流の品ノ木取水えん堤で支流からのわずかな流水を、県企業庁で取水し、その一部を4月から11月まで観光放流しているが、それ以外の期間は減水したわずかな水を放流していると伺った。早川は、県管理でありながら疑問を感じている。年間を通じて観光放流するよう町と県とで調整が図れないか。**

**A**　観光放流については今までの経緯もあると思うので、企業庁に確認し、町の意向を十分に伝えたい。

早川